在来マス類種苗生産試験
（アマゴ種苗生産配布事業）

和泉　安洋・尾田　文治

平成 10 年 10 月に採卵し，繰り越した稚魚を継続飼育し，平成 11 年 4 月現在 110,000 尾の春稚魚（平均体重約 3g）を生産した。このうち，平成 11 年 4～5 月に養殖用種苗として 45,000 尾，河川放流用として 40,000 尾を有償配布した。

採卵用親魚は，平成 9 年 10 月に採卵したものを，平成 10 年 10 月まで親魚候補として継続飼育した。なお，採卵時における雌親魚の平均体重は約 400g であった。採卵は，雌魚 1,926 尾から約 1,127,000 粒（1 尾平均約 600 粒）の卵を得て発眼卵 1,014,000 粒（発眼率 90%）を生産した。このうち養殖業者などに 500,000 粒を有償配布した。

また，出荷用春稚魚および親魚候補用として 120,000 粒を継続飼育していたが，当施設が平成 11 年度で閉鎖されるため，例年より 2 ヶ月早く平成 12 年 3 月に養殖用種苗として 45,500 尾，河川放流用として 50,000 尾を有償配布（平均体重約 2g）した。

さらに，平成 10 年 10 月に採卵し，親魚候補として継続飼育していた 2 才魚 3,500 尾（平均体重約 100g）を，平成 12 年 3 月に吉野川水系の松尾川などへ 1,200 尾，勝浦川水系の藤川など 1,100 尾，那賀川水系の大美谷ダムなどへ 1,200 尾を県営放流した。

表 1　平成 11 年度アマゴ生産状況

採卵用親魚（雌）	1,926 尾
採卵用親魚（雄）	150 尾
採卵数	1,127,000 粒
1尾あたりの採卵数	585 粒
発眼卵数	1,014,000 粒
発眼率	90 %
養殖用種卵（売却）	500,000 粒
春稚魚用発眼卵	130,000 粒
春稚魚用浮上卵	120,000 粒
浮上率	92 %

小歩危淡水養魚場における飼育水は，2 水系が使用され，このうち 1 号水系は，谷合の表流水を集めて使用し，平成 11 年 4 月～平成 12 年 3 月における水温は 7.3～17.2℃の間で変動した。2 号水系は，小河川の表流水を取水し，水温は 1.8～21.1℃の間で推移した。水系としては例年同様 1 号水の方が水温変動も少なく水量的にも安定していた。